



発行 真宗大谷派 高山教務所
発行者 出雲路 善公
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

念じられ 照らされて

自らの歩みを 静かに問い返すとき

荒山 淳



〔略歴〕
一九六一年名古屋市長生まれ。恵林寺副住職。教化センター主幹。東本願寺楽僧。20〜30代の若手僧侶と共同教化の現場を荷う「人の育成」を行う。

昭和36(一九六一年)年春、宗祖親鸞聖人七百回御遠忌が厳修された。当時29歳だった父は、「満堂の御影堂で、『正信念仏偈』が大音声で勤められた時、感極まり何か知らんけど泣けてきた」と折にふれ、その時の感動を篤く語ってきた。その言葉を聞いてきた私は、二〇一一年春・京都真宗本願、二〇一六年春・名古屋で厳修される宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌を心待ちにして大きな期待を膨らませていた。

昭和59年夏、高史明先生が全国児童夏のついで、御真影の御前で子たちに語られた慙愧のお言葉である。実はこの言葉、12歳で自らの命を絶つた子息・真史さんの残された詩である。「これは、私のことです。酒は飲めば酔う、しかし人によっては、酔うために飲んでいられる人もいます。自分だけが頼りの時、自分が苦しくなれば酒の中にも逃げたくなる。そういう私の姿が、ここに語られておりました」と、深い悲しみに満ちた声で語られた。その声は堂内に響き渡り、そこに参った一人一人の心を突き動かしたことを想起する。

それは同時に念仏の法幢を掲げる教団が、念仏に酔いしれた集団に成り果ててしまっている現実に対する慙愧の声にも聞こえた。翻って現在、今もなお、自身の生活を問うてくる。つまり、この慙愧の言葉が外向きの言葉ではなく、如来の御教えが光明となり名号となつて高氏自身を貫き、ひいては現代を生きる私をも含めた人間を貫き、不思議にも語られる言葉に胚胎する歎異の響きが感銘を与え、感動せしめるのである。

弥陀の誓願不思議にたすけられまいらせて、往生をばとぐるなりと信じて念仏もうさんとおもいたつころのおこるとき、すなわち撰取不捨の利益にあずけしめたまうなり。
〔歎異抄〕第一章
真宗聖典六二六頁

「正信念仏偈」を勤めることは、如来の「衆生を撰取して捨てない」はたらきが、偈頌となつて今、私の元に届いた証である。選択本願の念仏は、迷い、苦悩の中に沈没している我らと一如たらんとする如来の願心なのである。念仏申してから助かるのではない。また称えたからといって、自分の中にあつた問題が全て解決するということでもない。

い。むしろ、自力のはかりなどでは到底解決しようもない深い闇が、自分の中に厳然とあり続ける事実を知るのみである。「正信念仏偈」を勤める感動が、いつの間にか酒に酔いしれたような陶酔に変貌してはいまいか。さらに言えば、一人一人の信心の覚醒を願う純粹なる信仰運動「真宗同朋会」が、「同朋会運動」と言いさえすれば安泰という、ある種の依存状態になつてはいまいか。宗祖御遠忌は、自らの歩みを「このままでいいのかわらないのか」と静かに問い返すときだったのである。



あなたは狙われている 大学などの新生がいるご家庭へ

オウム真理教の事件から約20年。カルト宗教は収束した問題ではありません。今も様々な勧誘方法を駆使して、入信した信者に全てを委ねさせ、その人の自由な思考や判断を奪い支配しようとしています。その結果、家庭生活が破壊され、社会的立場が失われ経済的にも追いつめられるという事象が起こっています。

親元を離れて新しい学生生活が始まったこの時期、家やこれまでの友だちとも別れて一人で不安が多い時でもあります。そんな時カルトは、とても優しく親しげに声をかけて友人関係を作りながら、言葉巧みに誘ってきます。

その勧誘については、大学なども注意を呼びかけるので構内で誘うことは少なくなっています。現在はインターネットを介して新入

生歓迎の催し、就活セミナー、ボランティアサークルなどの呼びかけや個人的接触から勧誘に入るケースが増加しています。

もちろん様々なサークルや活動への呼びかけがいつもカルトの勧誘であるわけではありません。肝心なことは、たまたま出会った誘いがカルトの勧誘であることに気づき、深みに嵌る前に引き返すことです。そのため問題があることをしっかり知っていただくことです。

真宗大谷派では、こうした問題を知っていただくために学生向けのパンフレットを用意しています。ご入り用の方は教務所までお問い合わせください。



カルト問題の詳細についてはこちら

高山教区「平和と人権の旅」

時代に抗した僧侶・医師たち

「戦争は罪悪である」念仏の教えに立って非戦を唱え続けた僧侶、竹中彰元。大谷派の寺に生まれ、ハンセン病患者と関わり続けた医師、小笠原登。両氏ゆかりの地を訪ねます。

- 【開催期間】 2018年5月23日(水)【日帰り】
- 【会場】 小笠原登ゆかりの寺 圓周寺(愛知県甚目寺町)、竹中彰元ゆかりの寺 明泉寺(岐阜県垂井町)ほか
- 【募集人数】 20人
- 【参加費用】 5,000円
- 【締切】 5月9日(水)
- 【申込方法】 高山教務所までお電話ください



別院定例法座 午後1時から

- 5月3日 三日のご坊 講題 「語り継がれる真宗民話」 講師 三島清圓氏(西念寺)
- 5月28日 親鸞聖人ご命日法座 講題 「私が出会った人たち」 講師 日野益良氏(桂林教会)

家族で話そう

人生の

「こんなこと」「あんなこと」

佐賀枝 夏文

ごあいさつ

読者のみなさま、その後いかがお過ごしでしたか。サガエさんは相変わらず、あれが嫌、これが嫌と「ここから先」を持って余して暮らしております。先回は、人生の物語の始まりとして幼少期の「起の物語」の中で、「このころのふるさと」についてお話ししました。今回は、「このころのふるさと」の原風景をお話ししてみます。ひとのころにある原点ともいえる風景です。ここに思い描くことから今日はお話ししてみます。

あなた自身の「いま」との出会い

紙にエンピツで「流れる川」を描いてみましょう。二本の線を描けば「流れる川」となります。つぎに「山なみ」を描いてみることにしましょう。山の稜線もなんなく描けると思えます。つぎに「歩く道」を描いてみることにします。歩く道も、細い道、曲がり道、分かれ道とありますが、これも容易に描くことができます。上手下手は関係ありませんから、紙に描いて見るといいでしょう。描けば、頭に思い描くだけでも結構です。

さて、紙に描かれた絵をながめてみてください。まずは、「川」を見てご自分と対話してみてください。サガエさんが読者のあなたに語りかけますね。「あなたが描かれた川の流れるは、小川のようにですか？それとも、氾濫しそうな大川ですか？」。読者のあなたは、ご自分でお応えください。「せせらぎのような小川で

す・・・、「大川が怒涛のように流れているのです」と自由です。あなたが描かれた川と、ご自分の語りから、それぞれの思いが湧いたことと思います。川や水は、「感情」に譬えられることがありません。だとしますと、せせらぎのような透明な川と譬えられた方は、「いま」はこころが穏やかかもしれません。また、ご自分が描かれた大川が氾濫しそうだと思えられた方は、「いま」は穏やかならないことに直面されているかもしれません。

つぎに、ご自分が描かれた「山」に目を移してください。そして、サガエさんがあなたに問いかけます。「ご自分が描かれたその山に登ってみたいですか？」。



「そうだね、つぎの休みに登ってみようか」と応えられるかもしれません。また、「当分は見えておくだけにしよう」と思えられるかもしれません。山は「人生の課題」に譬えられることがあります。だとすると、ご自分が描いた山に登ろうと思われた方は、「いま」はご自分の課題にチャレンジしようと思われているのかもしれない。また、当分は見えておこうと思えられた方は、「いま」はあたたためておこうと考えておられるのかもしれない。

そして、最後は「道」です。サガエさんがあなたに問いかけます。「あなたが描かれた道は歩いて楽しい道ですか？いや、つらい道ですか？」。「道草もでき

るし楽しい」、「この道は、歩みにくい」など、さまざまに譬えられることと思います。道は「人生」に譬えられます。だとすると、楽しい道と思えられた方は、「いま」は幸いです。人生を洋々と歩いているイメージを持たれているのでしよう。つらい道と思えられた方は、「いま」は人生に難儀しているのかもしれない。

換えられない器

これは心理テストではなく、「感情の世界」、「人生の課題」、「人生の道」について、ご自分が感じられている世界だといえます。あえて紙にエンピツで描かなくても、ご自分で味わっている世界でもあります。ここで「このころのふるさと」として、お話しして、描いていただいた「川」、「山」、「道」は幼児期にいたいたたものです。そして、川の流れるは「いま」のあり様です。ですから、穏やかな流れのときもありましょう。また、氾濫することもあります。そして、山はチャレンジするときは、眺める時期もありましょう。道も同様です。楽しいときもつらいときもあるかもしれません。これが、人生でしょう。

ここで、みなさんと考えてみたいのは、「川」、「山」、「道」はそれぞれのあり様で、味わい方も感じ方も違います。しかし、その器としての「川」、「山」、「道」は、生涯を通じて変わっていきません。換えたかと思っても換えられません。山に登るのも、登らないのもあなたご自身です。いかなる道も歩くのはあなたご自身です。人生とは、いただいたこのわたしの「このころからだ」を生きることには他なりません。

次回は藤場芳子さんの「女と男のナムアマダブツ②」です。

教化研究所 課題別講義(公開)

日時 5月24日(木) 午後1時半から
講師 竹橋 太氏 (本山本願部出仕)
内容 帰敬式の歴史とその意義について
会場 高山別院会館 2階研修室

高山二祖若声会 連続公開学習会②

日時 5月30日(水) 午後7時半から
講師 海法龍氏 (東京教区長願寺)
内容 歎異抄第十三章
会場 高山別院 飯本堂
聴講料 500円

ひだごぼう 飛驒御坊子ども報恩講開催

去る3月31日、飛驒御坊(高山別院)において、老若男女約70名の参加により子ども報恩講をおつとめしました。「生まれる～本当にうれしいことって何だろう～」をテーマに、飛驒全域より集まった人々と共に正信偈を唱和し、仏さまのお話を聞き、ご坊うどんのお齋をいただきながら仏事としての子ども報恩講を大切に過ごしました。

講師の帰雲真智氏(還來寺住職)は、『アンパンマンのマーチ』の「何のために生まれて何をして生きるのか」という歌詞を紹介されて、「私は何のために生まれてきたか」という言葉を聞くと、私たち人間に成るために生まれてきたのです。人間に成るといえるのは、ごめんなさい、ありがとうという心を忘れず、今あるいのちを喜んで生きることです。そのことを、仏さまは南無阿彌陀仏という言葉で私たち一人ひとりに呼びかけて下さっています」というお話をして下さいました。

2018年4月28日は飛驒御坊宗祖親鸞聖人750回御遠忌讃仰事業「家族deご遠忌」をおつとめします。ご家族、ご友人を誘い合ってお参り下さい。

飛驒御坊 御遠忌通信 ⑩

満開の本山莊川桜

宗祖の御遠忌記念事業として東本願寺境内地に植樹された莊川桜が、3月中旬から下旬にかけて満開となりました。

昨年の12月の植樹から3ヶ月、こうして東本願寺の境内に飛驒の莊川桜が根づき、満開を迎えたことは大変喜ばしいことです。

春のすみきった青空、修復が完了した阿彌陀堂、そして満開の莊川桜と、東本願寺境内地の新たな光景が生まれました。



満開の本山莊川桜をご覧になるご門首夫妻